



令和四年 謹賀新年



後援会長 田原政義

品川総合福祉センター 後援会ニュース

あけまして
おめでとうご
ざいます。

皆様におか
れましては、
清々しい初春

をお迎えの事とお慶
び申し上げます。

後援会会員の皆様、
品川総合福祉センター
関係者の皆様、日頃
より当後援会に対し
まして深いご理解と
心温まるご協力を頂
きまして厚く御礼申
上げます。

さて、この二年間
は、新型コロナウイルス
感染症に振り回
され、緊急事態宣言
が長期化し、私たち
の日常にも大きな我
慢や節制を強いられ
ています。

昨年を振り返れば
コロナ感染症第三波
の急拡大から始まり夏
の第五波の中、オリッ
ピック・パラリンピック
の選手たちの姿に一
喜一憂し、勇気をもら

う事ができました。

しかしながら、新たにオミクロン株と
いう感染力の強い新種が広がりはじめ、
第六波が心配されています。

節制という徳を身につけるからこそ得
られる喜びがあるという古代ギリシャ以
来の哲学における伝統的な考え方の一つ
があるそうです。今が踏ん張り時。

幾多の自然災害に遭う中、礼節を保ち、
整然と行動する私たちの姿は、世界から
驚嘆され、称賛をうけました。共に手を
携え、頑張りましょう。

ところで、令和三年度の後援会の事業
としては、法人本部の花壇整備などを継
続して進める事ができました。ここに皆
様のご協力に深く感謝の意をお伝えする
とともに、引き続きのご支援をお願い
いたします。

本年も会員の皆様方が健康で幸多き年
となることを祈念いたしまして新年のご
挨拶とさせていただきます。

正月飾りを寄贈しました



恒例の正月飾りを法人施設へ寄贈しま
した。

お正月飾りは、お正月に家々を訪れる
年神様（としがみさま）をお迎えするた
めの目印であり、神様に滞在していただ
く為の依り代（よりしろ）です。

第33号
発行
品川総合福祉センター
後援会事務局
東京都品川区八潮
5-1-1



なかでも、鏡もち
は年神様が家を訪れ
た時の依り代。いわ
ゆる居場所となりま
す。
法人本部のロビー
には、鏡もちを飾り
年神様をお迎えして
います。

また、門松は入所施設、玉飾りは全施
設へ寄贈しました。後援会は、利用者の
皆様のご健康と法人の発展をお祈りして
います。



法人本部の玄関先に飾られた門松
と玉飾りでおもてなし。

募金箱設置のお願い

品川総合福祉センター後援会の募金箱
を設置して頂ける店舗や施設等をご紹介
いただけないでしょうか？

後援会の事業である、募金箱の設置は
く、地域の皆様へ福祉
について考えていただ
く機会となります。

地域福祉の推進の一
環として皆様のご協力
をお願いいたします。



今まで有難うございました

長年、品川総合福祉センター後援会の
会計監査をして頂いていた、久万秀代様
が昨年九月にご逝去されました。

久万様は生前、俳句の会に入門。水内
慶太氏に師事され、浦戸和この俳号で第
一句集「起き臥し」を七月に発行されま
した。ここに、十月、新聞に掲載された
句をご紹介します。

「捨てぬ荷と捨てられぬ荷よ鳥わたる」

人生の荷物を捨てる。といつても自分
の意志で捨てない荷物もあれば、事情が
あつて捨てようにも捨てられない荷物も
ある。それが溜まってゆけば、いつか結
構な量になる。やれやれという嘆きの声
が聞こえる。句集 起き臥から。

人生を重ねるにつれ、人それぞれに、
色々な荷物を背負っています。背負い
続けるだけでなく、時には、立ち止まり、
荷物を置いて一服することも必要ではな
いかと感じさせて頂きました。

ここに謹んで、久万様の
ご冥福をお祈りいたします。



編集後記

あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひいたします。
今年、壬寅（みずのえとら）、厳しい冬
を超えて芽吹きはじめ、新しい成長の礎と
なりますように。

後援会事務局（地域福祉課）